

# ～ 日本全国ユニバーサルビーチ活性化プロジェクト ～

## 活動の様子



## 取り組む課題

ユニバーサルビーチの取り組みは全国各地に広がりを見せている一方で、運営体制や人材確保、地域特性への対応、継続的な実施に向けたノウハウの蓄積と共有といった課題が指摘されている。特に、参加者の多様なニーズを十分に把握し、それを運営改善や次年度以降の活動に反映させる仕組みは、必ずしも体系化されていない。そこで本活動では、NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトをはじめとする各地の実践事例を対象に、参加者・家族・主催者の視点から課題を明らかにし、今後のユニバーサルビーチ活性化に資する知見の整理を課題とした。



## 企画・活動概要

本プロジェクトでは、昨年に引き続き障害者がマリンスポーツを楽しむことのできる「ユニバーサルビーチ」の活性化に向けた介入、及び参加者、主催者調査を実施した。具体的には、アカデミックパートナーとして締結しているNPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトの活動に同行し、日本全国のユニバーサルビーチ活性化に向けた実践的な取り組みに参画した。あわせて、参加者本人のみならず、その家族を対象にしたアンケート調査およびインタビュー調査、さらに主催者へのインタビュー調査を実施した。これらの調査結果については、パワーポイントの報告書にまとめ、報告会を行った。

## 本学(学生)の役割

本学学生は、活動参画において、ビーチマットの設置や「ヒツポキャンプ」と呼ばれる水陸両用車いすの利用サポートを担当し、参加者が安全かつ円滑にマリンスポーツを体験できる環境づくりに貢献した。加えて、アンケート・インタビュー調査では、調査項目の整理からアンケート用紙(フォーム)の作成、現地での調査実施、データ処理・分析、報告資料の作成まで、一連の調査プロセスに主体的に携わった。また、地方開催として、小豆島ユニバーサルビーチ in ふるさと村ビーチおよび徳島ユニバーサルビーチday in 月見ヶ丘海水浴場に参画し、地域特性を踏まえた支援活動と調査を行った。

## 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本活動を通じて、ユニバーサルビーチの運営実態や参加者・家族・主催者が抱える課題を多面的に把握し、今後のユニバーサルビーチの全国展開に向けた、具体的な改善点や示唆を得ることができた。学生たちは、現場での活動支援と調査活動を両立する中で、障害者とのコミュニケーション力や状況判断力を養った。また、調査設計から分析、報告までを一貫して担った経験を通じて、学生は現場で生じる課題を自ら捉え、データを用いて検討・説明する力を身につけた。加えて、他者と役割を分担しながら取り組む中で、社会共創活動に必要な主体性や柔軟な対応力が育まれた。



## 経緯・背景・目的

NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトは、障がいのある方やその家族、子ども、高齢者など、誰もが安心して海を楽しめるユニバーサルデザインのビーチ実現を目的に活動している団体である。近年、同様の取り組みは全国へ広がり、地域特性を踏まえた運営の在り方が課題となっている。そこで本活動では、参加者および関係者へのアンケート・インタビュー調査を通じて活動の現状を把握し、日本全国におけるユニバーサルビーチ活性化に向けた提案を行うことを目的とした。本年度は須磨、小豆島、徳島での活動に参加し、複数地域を比較する視点から検討を行った。

## 指導教員および関係者の紹介

### <指導教員>



人間社会学部  
人間健康学科  
准教授  
青山将己 (アオヤママサキ)

<専門・担当科目等>  
【スポーツプロモーション】  
スポーツビジネス論、  
健康・スポーツ関連企業分析、  
健康サービス企画運営演習ほか

### <関係者・企業等>

NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト  
代表理事  
木戸俊介 (キドシユンスケ)